



「探鳥会スタッフ通信」は、探鳥会の考え方や様々な運営手法について、全国の連携団体の探鳥会リーダーの皆様と情報交換を行うための通信です。

目次

- ◆Young 探鳥会が出来るまで (第4回)・・・1
- ◆日本野鳥の会栃木県支部 リスクマネジメント研修会・・・2
- ◆探鳥会保険集計結果・・・5
(2019年8月分)
- ◆普及室からのお知らせ・・・7
 - ・LINEでの、バードウォッチングのイベント情報の配信をはじめました
 - ・2019年10月改訂版「探鳥会保険のご案内」
- お送りします
～「熱中症」「食中毒」も補償対象に～
- ・バードウォッチングにおける豚コレラへの配慮について
- ・卒業研究のためのアンケートへのご協力、ありがとうございました
- ◆今月の購読者数・・・9
- ◆探鳥会スタッフ通信の無料配信について・10
- ◆編集後記・・・10

◆Young 探鳥会が出来るまで (第4回)

7月号から、Young 探鳥会の創始者である神奈川支部幹事の小松さんによる、Young 探鳥会の誕生にまつわるお話を連載しています。支部で新しいことに取り組もうとされている方には、励みになる貴重なお話だと思います。どうぞお見逃しなく！（普及室）

■新しい探鳥会をデザインする

若い人の為の探鳥会は「Young 探鳥会」と私が名付け、その名を冠しリサーチをおこないました。結果は我々の予想を遥かに越えていました。送り出した葉書・総数 390 通。返信数が何と 113 通。回収率 28.9%という驚異的な数字でした。返信された葉書がまた、紙面いっぱいを使って、細字でびっしりと書いてある物がすごくたくさんあったのにも目を見張りました。大雑把に言って、約 7 割の回答者が Young 探鳥会に賛成でした。

それも「このような企画を待っていました」とか「ぜひやって欲しい!」といった、熱望に近いコメントがたくさんありました。

予算を取っておこなったアンケートですから、当然、会議に報告しました。効果はテキメンで、狙い通り「Young 探鳥会については年齢制限などの内容も含め、小松君に任せる」と、割とスナリ承認されました。

勿論、こうした追い風ばかりではありませんでした。準備期間中も、随分批判を受けました。幹事の中にさえ激しい口調で、面と向かって言

い募った方もありました。会員の方から非難の手紙が事務所に届いたこともあります。普通の探鳥会で、参加者から厳しい叱責を受けたこともありました。内容をざっと挙げると「年配者を除け者にしようとしている」「若者だけを集めるとろくなことが無い」「同じ会費を払う者同士、特別扱いはおかしい、不公平だ」「あなたのような考えの持主が探鳥会リーダーなのは不適切だ」など。

新しい事を立ち上げる時には批判は付き物。向き合う覚悟なくして未来への扉は開きません。覚悟は出来ていましたが、私だって人間です、これだけ言われたら凹みますよ（笑）。それでも前に進めたのは、味方に付いて下さった先輩方の支援と、100 通を越えるこの返信葉書の後押しがあったからです。改めてあの時味方に付いて下さった先輩方、返信を下さった皆さんに心から感謝申し上げます。本当にありがとうございました。

アンケートの結果を反映した Young 探鳥会の内容は、次の通りです。

- ①20代～30代の年齢制限
- ②小グループ分けの探鳥
- ③環境別の鳥合わせ
- ④同世代交流お茶会

さて、内容は固まったので下見を行いました。小グループ分けでの探鳥やお茶会を想定し、開催地に選んだ「こども自然公園」(横浜市旭区)を、内容を想定しつつ歩きました。

環境別鳥合わせは開催地の環境を、林、湿地、茂み、池、人工物など、それぞれボードに描き、そこに野鳥の絵を参加者に貼ってもらう参加型の鳥合わせです。その環境ボードを描く必要性もありました。ボードに貼る野鳥の絵は私1人ではとても間に合いません。担当者全員と、絵が達者な柳場稔幹事にも描いていただきました。環境別鳥合わせのためには専用のワークシートも必要です。当たり前ですが、そんな物どこにも売っていません。全てゼロから手造り。試行錯誤を繰り返し、何回もボツにして必死に形にしていきました。結局、新しくやりたいことのための小道具は自作オリジナル品しかないのです。

全ては「Young 探鳥会を実現させたい!」という熱い想いがあったから出来たんだろうなと思います。

さあ、準備は全て終わり、いよいよ記念すべき Young 探鳥会、第1回目当日の朝です。

■Young 探鳥会第1回目の朝

1997年12月14日(日)、Young 探鳥会第1回目の朝。誰よりも早く開催地「こども自然公園」に着いた私の両手両足は、情けないことに震えていました。

「きちんと準備はして来たつもりだったけれど、何か不備は無かったらどうか・・・」

「企画は自分なりに考え抜き、リサーチもした上で用意した物だったが、不評だったらどうしようか・・・」

「何より、本当に参加者は来てくれるんだろうか、誰も来ないんじゃないだろうか?」

だらしない限りですが、次々に襲って来るネガティブ思考に私の心は千々に乱れ、不安で不安で仕方ありませんでした。

自分で言い出したこととはいえ、まだ普通の

探鳥会すら一度も仕切った経験がない内に、こんな新企画物のメイン担当者をやるなんて身の程知らずもいいところ、まさに暴挙でした。経験も実力も笑っちゃうくらい不足している私を、その時、辛うじて支えていたのは「こういう探鳥会を必要としている人が居るはずだ!」という信念と、味方して下さった先輩方の存在でした。

台本を兼ねた進行表に、もう一度目を走らせながら、必死に「落ち着け!落ち着くんだ!」と自分に言い聞かせていると、担当として入って下さった上玉利浩一幹事が到着されました。その頼もしいお顔を見て初めて、少し笑う事が出来ました・・・、いや出来たと思っていましたが、今考えると私の表情は強張り、笑顔とは程遠かったと思います。

上玉利幹事は私にとっては大先輩。経験豊富で懐が深く、この人が居れば必ず何とかしてくれるという絶対の信頼が置ける、DeNAになる前のベ이스ターズに例えるなら、大魔神・佐々木投手のような頼りになる方でした。

「誰も来なかったらどうしましょうか?」思わずほとばしる私の問掛け。上玉利幹事は「大丈夫だ、来るよ。あれだけ準備したんだから。」

と言って下さり、少し救われたものの、野球で言うなら、ちゃんと一試合投げ切れるかどうかの心配が頭をもたげ、みるみる緊張は増大していきました。

ほどなく、唐沢正貴幹事や中島直リーダー等の担当の先輩方が相次いで到着され、味方に囲まれた安心感から、何とか私は気持ちを立て直すことが出来ました。しばらくすると、公園入口前の道をバスが行き過ぎ、停留所に止まった気配がありました。やがてこちらに向かって参加者らしい人達が歩いて来ます。もう全身鳥肌になりました。そして最初に来て下さった参加者の方から、私は生涯忘れ得ぬ、記念すべき第一声を耳にしたのでした。

「すみません、Young 探鳥会の集合場所はこちらでしょうか?」
(次回につづく)

(日本野鳥の会神奈川支部/小松洋)

◆日本野鳥の会栃木県支部 リスクマネジメント研修会

9月14日(土)に、日本野鳥の会栃木県支部で、リスクマネジメント研修会が開催されました。普及室で講義と実習を担当しましたので、研修会全体の様子と合わせてご紹介します。

日本野鳥の会栃木県支部では、昨年 2018 年には『楽しい探鳥会をつくる研修会』を開催しています。(参考：探鳥会スタッフ通信 2018 年 10 月号

<http://www.wbsj.org/info/shibu/tancho/staff201810.pdf>)

今年の研修会は、探鳥会のリスクマネジメントがテーマでした。開催の背景として、ここ数年、栃木県支部ではビギナー探鳥会を多く開催し、会員外の参加者が増えていることや、入会者の増加にともなって通常の探鳥会の参加者が増えていることがあります。野外活動に慣れていない方の参加が増えているため、探鳥会をより安全に運営できるよう企画されました。

関東ブロック所属の支部にも開催のお知らせがされ、当日は、栃木県支部から 15 名、群馬から 2 名、埼玉から 1 名が参加しました。

■開催概要

【日時】 2019 年 9 月 14 日 (土)
10 時 00 分～16 時 30 分

【会場】 宇都宮総合福祉センター
(栃木県宇都宮市)

【参加者】 18 名
(栃木県支部 15 名、群馬 2 名、埼玉 1 名)

■当日の流れと内容

10:00 開会、支部長あいさつ
10:10 説明「日本野鳥の会について」
10:15 自己紹介
10:35-10:50

グループワーク「探鳥会のヒヤリハット事例」

アイスブレイクを兼ねて 4 つのグループごとに、これまでに経験したヒヤリハットを出し合いました。私の班では、「三脚が人にぶつかりそうになった」「望遠鏡を覗き終わった参加者が、後ろの人にぶつかりそうになった」「駐車場で望遠鏡を立ててしまい、車と接触する可能性があった」などの事例が挙がりました。

11:00-11:50

講義 探鳥会のリスクマネジメント

(講師：普及室／堀本理華)

探鳥会のリスクマネジメントに関して、概要、指導者の法的責任、手順(リスクの発見、評価、対処、フォローアップ)をお話しました。

会場からは質疑の他、「学校行事などでは必ず安全管理者がいる。探鳥会でも安全管理専任のリーダーが必要かもしれない」「リーダー全員が研修を受けるべきではないか」との声があ

りました。

11:50-13:00 昼食

13:00-14:10

実習「探鳥会で使えるリスクアセスメント」

(講師：普及室／箱田敦只)

リーダー 3 名で 30 名の参加者に向けて探鳥会をすることを想定し、グループごとに、リスクの発見から評価までを実施しました。前半は、研修会場の隣にある広場にて、リスクの発見をおこないました。



▲ツバキ科の植物でチャドクガの幼虫を発見

後半は、室内に戻り、発見したリスクを共有し、それらを「事故が起こる可能性」と「起きた場合のダメージの大きさ」という 2 軸で評価しました。事故の可能性もダメージも大きいものとしては、「スズメバチ」「熱射病」「段差」などが分類されました。最後にグループごとに発表し、各探鳥会で同じことに取り組んでほしいと伝えました。

14:20-14:50

講演「探鳥会における危険要因とその対策」

支部で作成した資料に沿って、気象・天候、ケガ、クマなどの哺乳類など探鳥会における危険要因とその対策について確認しました。

15:00-15:20

講義「その他のリスク(個人情報)」

(講師：普及室／箱田敦只)

個人情報保護に関して、個人情報とは何か、取り扱い(取得、利用、保管、他人に渡す、開示)上の注意を解説しました。また、財団が作成した、支部に実施してもらいたい「個人情報保護チェックリスト」を共有しました。

15：20-16：30

意見交換「こんな時どうする?～事例と対応～」

本研修会の申込時に、研修参加者から探鳥会での事故やヒヤリハット、クレームなどが収集されました。その事例に基づき、撮影マナーの普及、登山探鳥会での体調管理、クマのリスクなどについて、意見交換をしました。



▲意見交換の様子

16：30 閉会

17：00-20：00 懇親会

■まとめ

今回の研修会に合わせて、支部で「探鳥会における危険要因とその対策」が作成され、参加者から好評を集めていました。また栃木県支部では、2015年から「ヒヤリハット・事故発生報告書」を用意しており、探鳥会開催中にヒヤリハットや事故が発生した場合には、速やかに支部事務局に送ることになっています。

(支部ホームページ「ダウンロード」下部の「ヒヤリハットシート・事故発生報告書」をご覧ください。<https://wbsj-tochigi.jimdo.com/ダウンロード/>)

探鳥会現場の安全性を向上させていくためには、リーダー同士の円滑なコミュニケーションも大事な要素となります。研修会では、参加者が自由に意見を出し合える雰囲気があり、前段の取り組みに加えて、こうした風通しの良い風土があることの大切さを感じました。

(普及室／堀本理華)

◆探鳥会保険集計結果（2019年8月分）

8月は69支部からご報告をいただき、計163回の探鳥会が開催され、のべ3,809人が参加されました。

表1. 8月の探鳥会保険集計結果（2019年9月15日現在）

支部	開催回数 (回)	参加者数		スタッフ数 (人)	合計人数 (人)
		会員(人)	非会員(人)		
オホーツク支部	1	24	6	1	31
根室支部	-	-	-	-	-
釧路支部	-	-	-	-	-
十勝支部	-	-	-	-	-
旭川支部	0	0	0	0	0
滝川支部	0	0	0	0	0
道北支部	2	12	2	2	16
江別支部	-	-	-	-	-
札幌支部	2	68	29	7	104
小樽支部	2	3	6	2	11
苫小牧支部	0	0	0	0	0
室蘭支部	0	0	0	0	0
道南桧山	1	9	9	4	22
青森県支部	-	-	-	-	-
弘前支部	2	20	0	2	22
秋田県支部	4	31	0	4	35
山形県支部	1	9	1	2	12
宮古支部	-	-	-	-	-
もりおか	1	10	6	5	21
北上支部	0	0	0	0	0
宮城県支部	2	46	15	5	66
ふくしま	1	25	5	2	32
郡山支部	2	49	23	5	77
白河支部	2	2	0	8	10
会津支部	-	-	-	-	-
奥会津連合	-	-	-	-	-
いわき支部	1	13	23	2	38
福島県相双支部	-	-	-	-	-
南相馬	-	-	-	-	-
茨城県	8	46	52	12	110
栃木県支部	5	81	33	16	130
群馬	5	60	134	18	212
吾妻	0	0	0	0	0
埼玉	4	62	14	21	97
千葉県	6	56	12	26	94
東京	12	230	22	59	311
奥多摩支部	6	80	12	24	116
神奈川支部	6	86	29	40	155
新潟県	-	-	-	-	-
佐渡支部	-	-	-	-	-

富山	1	17	2	2	21
石川	3	26	115	12	153
福井県	0	0	0	0	0
長野支部	1	10	1	2	13
軽井沢支部	1	10	9	1	20
諏訪支部	1	6	8	2	16
木曾支部	-	-	-	-	-
伊那谷支部	0	0	0	0	0
甲府支部	2	26	6	4	36
富士山麓支部	1	10	4	2	16
東富士	-	-	-	-	-
沼津支部	1	10	1	2	13
南富士支部	1	29	27	2	58
南伊豆	-	-	-	-	-
静岡支部	1	7	2	3	12
遠江	2	37	8	6	51
愛知県支部	7	65	23	19	107
岐阜	-	-	-	-	-
三重	1	7	13	2	22
奈良支部	4	51	169	12	232
和歌山県支部	0	0	0	0	0
滋賀	4	16	22	8	46
京都支部	1	20	50	5	75
大阪支部	10	150	103	49	302
ひょうご	3	30	83	9	122
NPO法人日本野鳥の会鳥取県支部	2	27	15	2	44
島根県支部	2	37	13	2	52
岡山県支部	3	27	23	10	60
広島県支部	2	29	25	2	56
山口県支部	1	9	4	1	14
香川県支部	2	45	5	2	52
徳島県支部	5	78	17	5	100
高知支部	1	5	5	1	11
愛媛	5	72	13	9	94
北九州支部	2	9	0	2	11
福岡支部	5	45	7	11	63
筑豊支部	4	47	5	5	57
筑後支部	0	0	0	0	0
佐賀県支部	1	7	5	1	13
長崎県支部	-	-	-	-	-
熊本県支部	3	32	20	5	57
大分県支部	1	13	5	2	20
宮崎県支部	2	28	9	2	39
鹿児島	1	12	14	3	29
やんばる支部	-	-	-	-	-
石垣島支部	-	-	-	-	-
西表支部	0	0	0	0	0
全国	163	2071	1264	474	3809

備考：-は保険の申請がなかったことを示しています。

(普及室)

◆普及室からのお知らせ

■LINEでの、バードウォッチングのイベント情報の配信をはじめました■

普及室では、バードウォッチング初心者を対象とした、LINEでのバードウォッチングのイベント情報の全国配信をはじめました。

昨年度から、関東在住の方に試験的に配信をしておりましたが、準備が整いましたため、対象を全国に拡大しました。

今後は主に、全国の「初心者向けバードウォッチング」(探鳥会)を中心に、財団のイベントや活動を毎週1~2回紹介していく予定です。バードウォッチング初心者の方々が、日本野鳥の会に興味を持っていただき、探鳥会に参加するきっかけがつかれるよう、配信してまいります。

■アカウントはこちら

「日本野鳥の会
バードウォッチング」
(@yachoevent)



Bマークのアイコンが目印です。

10月9日現在の登録者数：433名

■LINE登録の呼びかけにご協力ください

ぜひ、当会のLINEの登録の呼びかけに、ご協力をお願いいたします。

(1) カードの配布

LINEおよび探鳥会情報メール配信の登録を呼びかける名刺サイズのカードを用意しました。支部の活動地域で開催される、一般の方が集まるイベントに出展される機会がありましたら、来場者にお配りいただければと思います。

カードの配布にご協力いただける場合は、普及室 普及教育グループまでご連絡ください。



▲LINE、メール配信の登録カード

(2) 支部ホームページ、SNSなどでご紹介

当会のLINEは、以下のURL、QRコードから登録できます。支部ホームページやSNSなどの、一般の方の目に留まりやすいページに、以下をご紹介いただければと思います。

- LINE 登録用 URL

<http://nav.cx/czwpOhQ>

LINE アプリをインストールしたスマートフォンでクリックすると、当会のLINEを登録するかどうかの質問画面が表示されます。

- LINE 登録用 QR コード

QRコードの設置にご協力いただける場合は、解像度の高いデータをお送りしますので、普及室 普及教育グループまでご連絡ください。



- 【本件のお問い合わせ先】

普及室 普及教育グループ

メール：tanchostaff@wbsi.org

■2019年10月改訂版「探鳥会保険のご案内」お送りします

～「熱中症」「細菌性食中毒」も補償対象に～

2019年10月1日より、探鳥会保険で「熱中症」と「細菌性食中毒」が補償されることとなりました。それに伴い、例年8月に発行している「探鳥会保険のご案内」を改訂し、各支部の事務局にお送りしますので、ご確認をお願いいたします。

■2019年10月の改訂箇所

1ページ「傷害保険のあらまし」に、「熱中症」と「細菌性食中毒」は補償の対象となることを追加しました。

■探鳥会保険とは？

「探鳥会保険」は、財団や支部が開催する探鳥会活動をサポートすることを目的に、財団が窓口となり保険会社と契約している保険のこ

とを指します。

この保険は財団が掛け金を払っているものですが、それは、支部が行う探鳥会は、財団と支部が共同開催しているという解釈が前提となっています。

より補償が手厚い「追加プラン」のご加入は、支部ごとにご検討いただき、掛け金は加入され

る支部に負担していただいています。

詳細は、各支部の事務局に郵送いたします「日本野鳥の会 探鳥会保険についてのご案内」をご覧ください。また、ご不明な点がございましたら、普及室普及教育グループ 探鳥会保険担当 (tancho@wbsj.org) までお気軽にお問い合わせください。

■バードウォッチングにおける豚コレラへの配慮について■

豚コレラは、豚やイノシシに感染する伝染病で、養豚業にとって脅威となるものです。現在、中部地方を中心に感染地域が拡大しています。

感染した個体から排出されたウイルスとの接触により、感染が拡大します。

現在、野外でイノシシへの感染が確認されており、感染拡大の一因となっています。感染拡大防止に向けた注意事項が、環境省のホームページに掲載されており、特に野外活動時に注意すべきことがありますのでお知らせいたします。

●ウイルスを上げない

→野山、森林、林などにでかけたら、靴底や三脚などに付着した泥を取り除きましょう。

●死亡したイノシシをみつけたら連絡を。

→直ちに地方自治体に連絡しましょう。

【参考】豚コレラの感染拡大防止に向けた広報ツールの公開について（環境省 HP）

<http://www.env.go.jp/press/107227.html>

タカの渡りの観察などで、普段は訪れない山間部での探鳥会も多くなる季節です。ウイルスの拡散を防止するため、イノシシの生息域を訪れた際は、特にご注意ください。

みなさまのご配慮をお願いいたします。

■卒業研究のためのアンケートへのご協力、ありがとうございました■

9月13日に、探鳥会スタッフ通信メール版をご購読の皆様には日本大学の学生さんからの依頼で「卒業研究のためのアンケートへのご協力をお願い」をお送りいたしました。これまでに47名の方からご回答をいただきました

（10/9現在）。

ご協力誠にありがとうございました。なおアンケートの結果につきまして、年度内に共有させていただきます。

◆今月の購読者数

探鳥会スタッフ通信 10月号の電子メール版の購読者数は、先月から1名減って855名です。各支部の購読者数は、「財団からの配信者数」と「支部からの転送による配信者数」の合計です。

表2. 探鳥会スタッフ通信 10月号電子メール版の購読者数（2019年10月9日現在）

支部	購読者数	支部	購読者数
オホーツク支部	6	軽井沢支部	1
根室支部	1	諏訪	7
釧路支部	3	木曾支部	1
十勝支部	1	伊那谷支部	1
旭川支部	3	甲府支部	4
滝川支部	1	富士山麓支部	0
道北支部	1	東富士	0
江別支部	0	沼津支部	3
札幌支部	5	南富士支部	3
小樽支部	3	南伊豆	2
苫小牧支部	2	静岡支部	2
室蘭支部	5	遠江	11
道南桧山	1	愛知県支部	45
青森県支部	1	岐阜	6
弘前支部	5	三重	19
秋田県支部	4	奈良支部	3
山形県支部	4	和歌山県支部	5
宮古支部	1	滋賀	20
もりおか	4	京都支部	31
北上支部	2	大阪支部	26
宮城県支部	39	ひょうご	14
ふくしま	6	NPO法人日本野鳥の会鳥取県支部	10
郡山支部	1	島根県支部	13
白河支部	2	岡山県支部	28
会津支部	2	広島県支部	9
奥会津連合	0	山口県支部	16
いわき支部	1	香川県支部	6
福島県相双支部	0	徳島県支部	5
南相馬	0	高知支部	1
茨城県	22	愛媛	16
栃木県支部	59	北九州	11
群馬	24	福岡支部	12
吾妻	1	筑豊支部	21
埼玉	38	筑後支部	6
千葉県	24	佐賀県支部	5
東京	69	長崎県支部	1
奥多摩支部	48	熊本県支部	13
神奈川支部	28	大分県支部	4
新潟県	2	宮崎県支部	4
佐渡支部	1	鹿児島	3
富山	2	やんばる支部	0
石川	30	石垣島支部	1
福井県	12	西表支部	1
長野支部	1	合計	855

(普及室)

◆探鳥会スタッフ通信（電子メール版）の無料配信について

探鳥会スタッフ通信は、支部の探鳥会スタッフならどなたでも受信できます。（無料です）

ご希望の方は、「探鳥会スタッフ通信希望」と明記のうえ、①支部名 ②担当している探鳥会名 ③お名前 ④ご住所 ⑤電話番号 ⑥メールアドレス（パソコンやスマートフォンのア

ドレス）を記入し、tancho-staff@wbsj.orgへお申し込みください。バックナンバーとともにメール版を送信いたします。

配信を希望されない、メールアドレスの変更などについても、tancho-staff@wbsj.orgまでお知らせください。

★編集後記

すっかり秋らしくなりましたね。私の自宅の近所の川では、ちらほらコガモが見られるようになりました。夜には街明かりでエサを探すアオサギや、アヒル？も見られるので、細い川なのですが、なかなか賑やかです。

本日はちょうど、冬期（2020年1月～3月）開催の「初心者向けバードウォッチング」の実施概要の締め切り日です。

秋期（10月～12月）の「初心者向けバードウォッチング」は、29支部から、なんと55回もの計画をいただきました。なるべく多くの方に参加していただけるよう、財団も広報に力を入れてまいります。

（普及室／井上奈津美）

日本野鳥の会

探鳥会スタッフ通信 第79号

◆発行

（公財）日本野鳥の会 2019年10月15日

◆担当

普及室 普及教育グループ

〒141-0031

東京都品川区西五反田 3-9-23 丸和ビル

TEL：03-5436-2622

FAX：03-5436-2635

E-mail：tancho-staff@wbsj.org
